小田原市議 佐々木ナオミの 議会な日々ニュース

extra #0607

携帯電話　080-5484-1634
メール　love-and-peace@naomi-sasaki.com
発行責任者　佐々木ナオミ　〒250-0874　小田原市栢山 831-7 tel&fax 0465-49-3732　HP http://naomi-sasaki.com/

新しい市民ホールは本当に建つのか？　市道廃止は、簡単にはいかない！

５月２９日に、市民会館で「芸術分化創造センター」の基本設計と整備にかかる地域説明会が行われました。今回は幸地区の住民を中心に広報をしたとのことでした。

市からは、新しい市民ホールの詳しい内容などが説明されましたが、参加した市民の方の関心事は、建設予定地内に横たわる、国道１号線からお濠端通りへ抜ける市道２１９７の一部廃道について。

市民ホールを建設するにあたり、市道２１９７を廃止し、今は私道となっている道を新たに４ｍ（うち、１ｍが歩道、３ｍが車道）の市道として整備をする予定とのこと。

住民の方からは、

「市道２１９７の交通量をもっと丁寧に調査し、数字として示すべき」

「４ｍでは救急車やゴミ収集車が入ってこれない」

「大きな施設を建てるのに、なぜ４ｍの接道でよいのか!？民間の建築許可なら６ｍでなければならないはず」

「周辺地域の安全は守れるのか？」

「なぜ、廃道も済んでないのに、計画を進めたのか」

など、疑問、意見、不満の声が続々と出されました。

3月議会では実施設計の委託料1億6千万円が議会を通過しましたが、その前に廃道を済ませておくべきと、私は指摘をしました。

市からは大丈夫という答弁がありましたが、案の定、道路をなくすというのは簡単なことではなかったわけです。

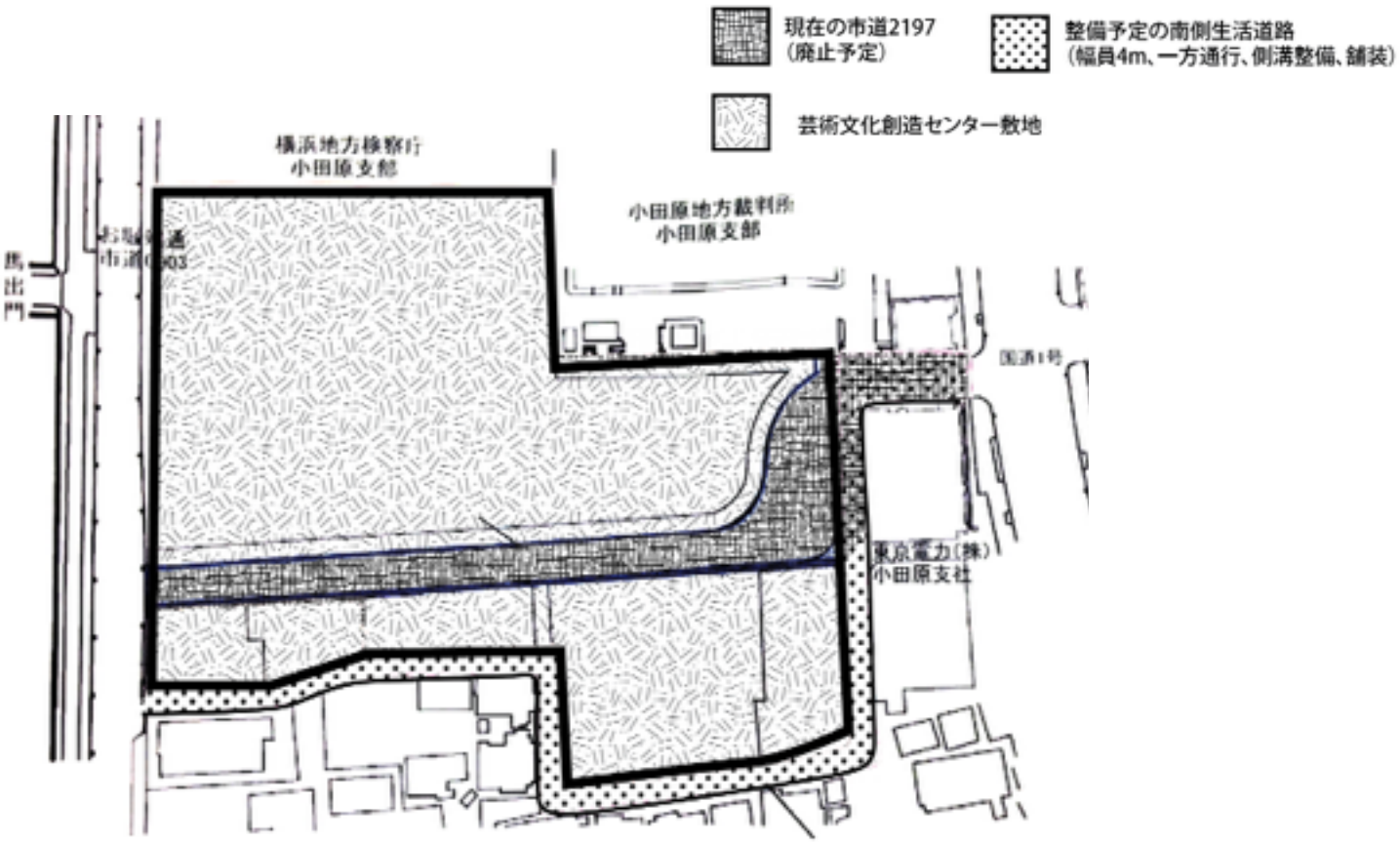
廃止できなければ計画そのものを振り出しに戻さなければならないほどの大問題です。

そうなれば、これまで計画策定に使った時間もお金も労力も、すべてドブに捨てることになります。

こんなめちゃくちゃな手順で進めようとした市も問題ですが、わかっていながら許してきた議会の責任も重いと私は思います。

市民ホール問題はこれからが本番です。

ぜひご注目ください。



6月5日から小田原市議会6月定例会がはじまりました。

市から提案された主な議案

- 地下街再生事業の工事費が、昨年12月当初の約15億6千万円から、2月にも増額、さらに今回も増額し約17億5400万になるとのこと。
- さらに、地下街事業の特別会計（地下街だけのお財布）をあらたに作ることも、併せて提案されています。
- 先日破たんした、小船森区画整理事業の後始末。売れ残った土地を一括して不動産業者に購入してもらうために、貸付の際に担保とした土地の抵当権を放棄する議案について。
- 下水道料金の値上げ。前回の値上げは22年の10月。今回の値上げで負債だらけの下水道事業をどこまで立て直せるのか？
- 先日起きた児童手当搾取事件の責任をとって、市長の給料の減額。不祥事のたびに減額しているけれど、根本解決はいつ？
- 予防接種健康被害調査委員会の立ち上げ。接種後に死亡した事案の因果関係を調査するための委員会が立ち上がります。6月11日はこれらの議案に対する「議案関連質問」。

その後各常任委員会に分けて、詳細な審議。
12日は建設経済常任委員会　13日は厚生文教常任委員会
16日は私が所属する総務常任委員会
19日が採決になります。

そのほか、新しい市民ホールの問題や、お城通り再開発の駐車場ゾーン１階にできる「市民交流センター」の報告などもあります。

議会はどなたでも傍聴できます。申し込みは不要です。会議はすべて午前１０時からです。
また、小田原市議会のHPから、生中継を見ることができます。録画は１週間後から。

西尾優貴さん　福島県相馬市出向報告会　in　@あしがら政治サロン

参加した@あしがら会員からのリポートです。

今回の@あしがらの政治サロン、ゲストスピーカーは、小田原市職員の西尾優貴さん。平成２５年度一年間、福島県相馬市役所に派遣され、復興のための道路整備などの仕事に携わってきた彼から、被災自治体の震災直後の対応から、復旧、復興のプロセスについての貴重な報告を聞くことができました。

前半、福島県や相馬市の紹介に続き被害状況についての基礎的なデータの説明、さらに災害に対して相馬市がどのように取り組んだのかについてビジュアルで示してくれました。西尾さんは、避難道路整備事業にたずさわったそうです。

同じ市内でも、ほとんど被害を受けなかった地域も多く、将来を見据えた道路の拡幅などのための土地の提供には、大きなハードルもあったそうです。

同じ海沿いにあり、近い将来の大地震が予想される小田原市にとっても色々な教訓を含む西尾さんの話でした。

また彼は、持ち前の明るさで、行政職員としての仕事だけでなく、原釜地区で朝市の活動をする市民や、若い漁師さんなど、相馬の本当のいいものを発信していこうというポジティブな人と色々な交流を深めたようです。

社会基盤の整備は行政の仕事だけど、人間はそれだけでは生きられない。楽しみや豊かさを感じる何かは市民自身の力でつくりだすもの。「復興」について、西尾さんはそう語っていました。

そんな彼が政治サロンで話をするというのをフェイスブックで知った、交流のあった福島の人たちが、今日、突然話を聞きに、小田原にいらしたのには驚きました！
原釜の高橋さんとその御嬢さん、南相馬市小高地区の久米さんです。　最後に久米さんの言葉『是非、現状を見に来てほしい。放射能で人がいない、家に住めないとはどういうことか？魚を捕れないとは？来て見てほしい。こんな先進国に、私たち“難民”がいる。見に来て、それを人に語って欲しい』『東電が憎いけど、憎しみからは何も生まれないと分かった』重い言葉です。　（T.H）

@あしがら-----私が共同代表をつとめる政治団体です。市民自治の実現を目標にがんばってます。会員随時募集中！